

中 田 國太郎 選 投稿数18首

初釜に招かれ凧と和服にて九十二歳の姉と正座す  
 (評)忙しい日常生活から離れ閑寂な茶室にこもり茶の湯を楽しむことは、我々庶民には遠い世界のように感じられる。しかも新年に初めて凧をかけた茶事は、またまた寒さの厳しい季節で、きりりと身のひきしまるムードだろうと思う。それらを作者は「凧」に集約して表現している。これがこの作品の光である。この核が、九十二歳の姉と和服で正座することによって修飾されている。元旦を詠んだ前川佐美雄の「首」切り炭の切りぐちきよく美しく火となりし時に恍惚とせり「四方田作、降灰の不安が素直に表現されている。新井作、全く同感。浅見作、痛恨の極みの中の「瞬」の安らぎ。

北風の強かりし朝灰来るか浅間の噴火気になり外へ  
 先見えぬ不況が襲う世の危機に明るき兆しひたに待たるる  
 肺癆で逝きし弟の入棺に遺影の笑みやわが胸癒す  
 今行った電車に客の影なしと群れ話し行く開きし踏切  
 国道の路面の輝割れ痛々し努めて避けるバイクの吾は  
 冷へし身を湯舟に浸り音たてず居れば氣遣い夫は声かける  
 何ごとも受け容れ生されば苦はないと本で教わる七十五歳  
 寝たきりに長病み逝きし夫偲ぶ歩み来し夢醒めて儚き  
 白梅の清香あふる園にゐて花の声聴くこちするなり  
 捨て植えしチューリップの芽立春の陽射あつめてぬくぬくとあり  
 男曾孫の今日はめでたい誕生日餅を背負いて力歩を見せる  
 雫落つ頭にぼつり終い風呂鼻歌まじりの大晦日の夜

上日野沢 四方田利男  
 皆野 新井 愛子  
 金崎 浅見富美子  
 皆野 大塚 芳男  
 皆野 金子善次郎  
 三沢 新井 叶子  
 三沢 眞下 杏子  
 下日野沢 浅見 豊子  
 皆野 笠原三江子  
 金崎 山田 雅子  
 皆野 塩田 千代  
 三沢 横田ハルジ

引 間 豊 作 選 投稿数27句

声しかと放ちひとりの鬼やらい  
 (評)「鬼やらい」は暦の上では冬から春に移る折の行事で、こに年越しの夜をさし、現在では邪霊や災難を除ける呪術的な面もあり、陰陽道では古来節分を重んじ、豆撒や柊を門戸に挿す慣しがある。歌舞伎の「三人吉三白浪」でお嬢吉三が大川端で「月も朧に白魚の篝も霞む春の空……此の後厄払い」の声にほかに今夜は節分か、思ひがけなく手に入る百両、こいあ」の名調子に観客は春になった気分になったとの事。揚句は独り棲の作者の豆撒きの場で「声しかと」の打出しに今年もしっかり生きるの気概に感動。

電線にかりかりし風の風呼べり  
 下日野沢 引間富美子  
 此の先は滝の凍てつく散歩道  
 下田野 藤原 道男  
 臘梅の香に頼寄せる車椅子  
 皆野 関根 助市  
 行間を読む寒中の便りかな  
 下田野 中田 久恵  
 臘梅の香るバス停一人待つ  
 皆野 中村 恒子  
 初天神六十年の婚記念  
 金沢 関和 トヨ  
 肩くみし雪の武甲もいさみあし  
 金崎 設楽 武子  
 取込みの観葉植物春近し  
 三沢 沢野 恒平  
 久々の雨によるこぶ芽木の山  
 皆野 根岸 詩子  
 寒々と山茶花のある空家かな  
 三沢 鈴木 貞恵  
 当主逝きチョッピリ淋し初不動  
 金崎 野原登美子  
 初店で求めし青き花の名は  
 下日野沢 江野 鑑子

俳句・短歌を募集  
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して  
 総務課へお寄せください。  
 1人1句、1首に限ります。  
 8日必着

1 歳のお誕生日おめでとう



結衣ちゃん

金崎区  
 宮下 彰夫さん  
 希さん  
 いつも元気いっぱい  
 結衣ちゃん。  
 素敵な女の子になってね♡



桜ちゃん

戦場・土京区  
 松本 光則さん  
 尚美さん  
 桜の笑顔は家族みんなの  
 元気の源☆ 明るく元気いっ  
 ぱいに育ってね!!



優志くん

戦場・土京区  
 青木 信之さん  
 順子さん  
 家族みんな優志が大好き☆  
 優しく、たくましく健やかに  
 育ってね☆

※満1歳の赤ちゃんを募集します。4月号の締め切りは、3月10日(火)まで。ホームページからも応募できます。